

2019年の箱根山の火山活動

神奈川県温泉地学研究所 火山対策調整官 瀧沢倫明

2019年に箱根山では2015年以来となる火山活動の活発化が見られました

2019年3月頃に、箱根山の地殻変動観測や火山ガス観測等で、火山活動活発化の兆候が認められ、5月に芦ノ湖北西部で地震が多発し、噴火警戒レベルが1から2に引き上げられました(※1)。その後、火山活動度は徐々に低下し、10月には噴火警戒レベルが2から1に引き下げられました。今回の活動を主な観測項目毎にふり返ります。

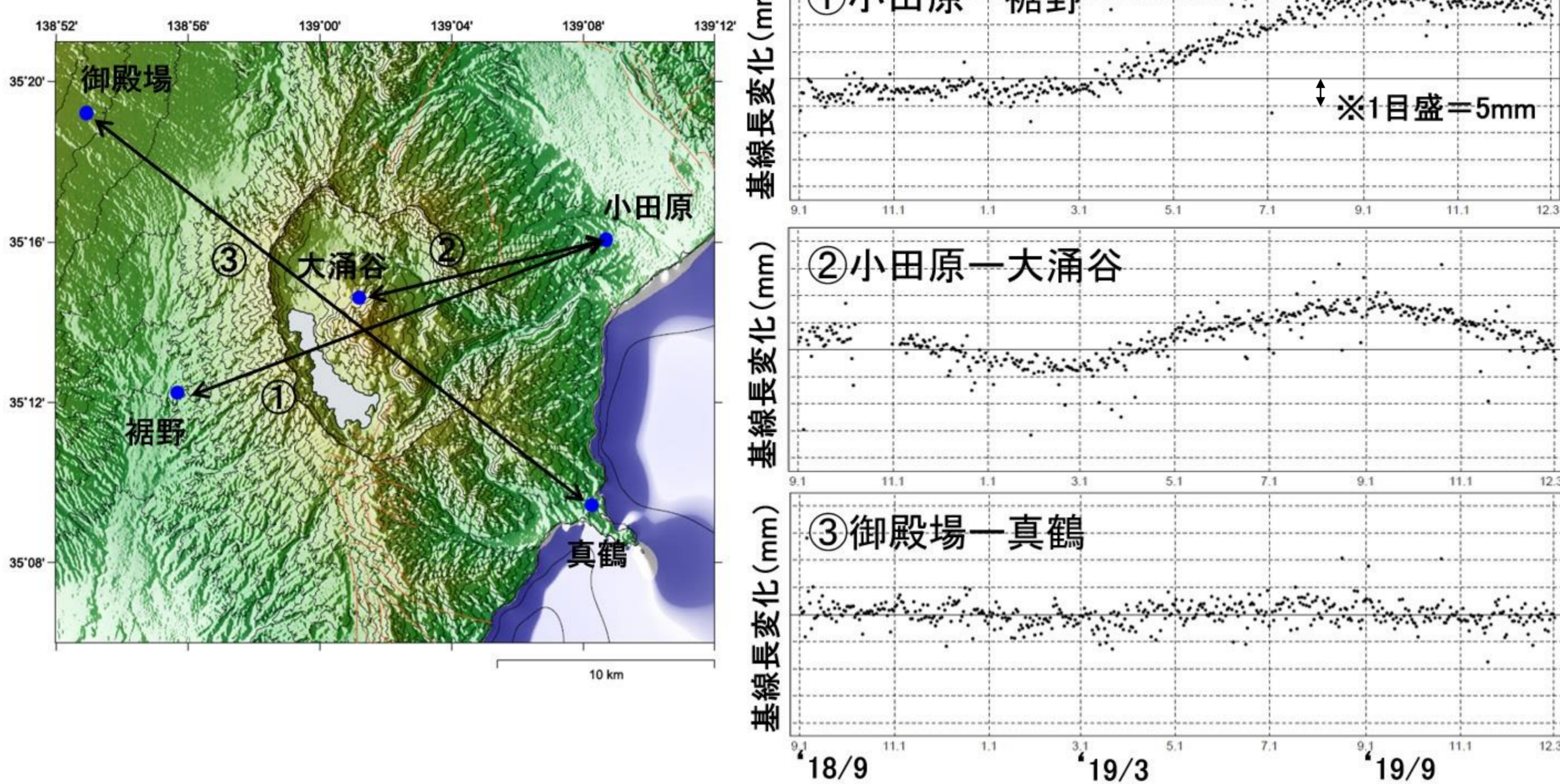
※表示データは2019年12月末まで

注) (※1)の判断は、気象庁のカウントに基づきます

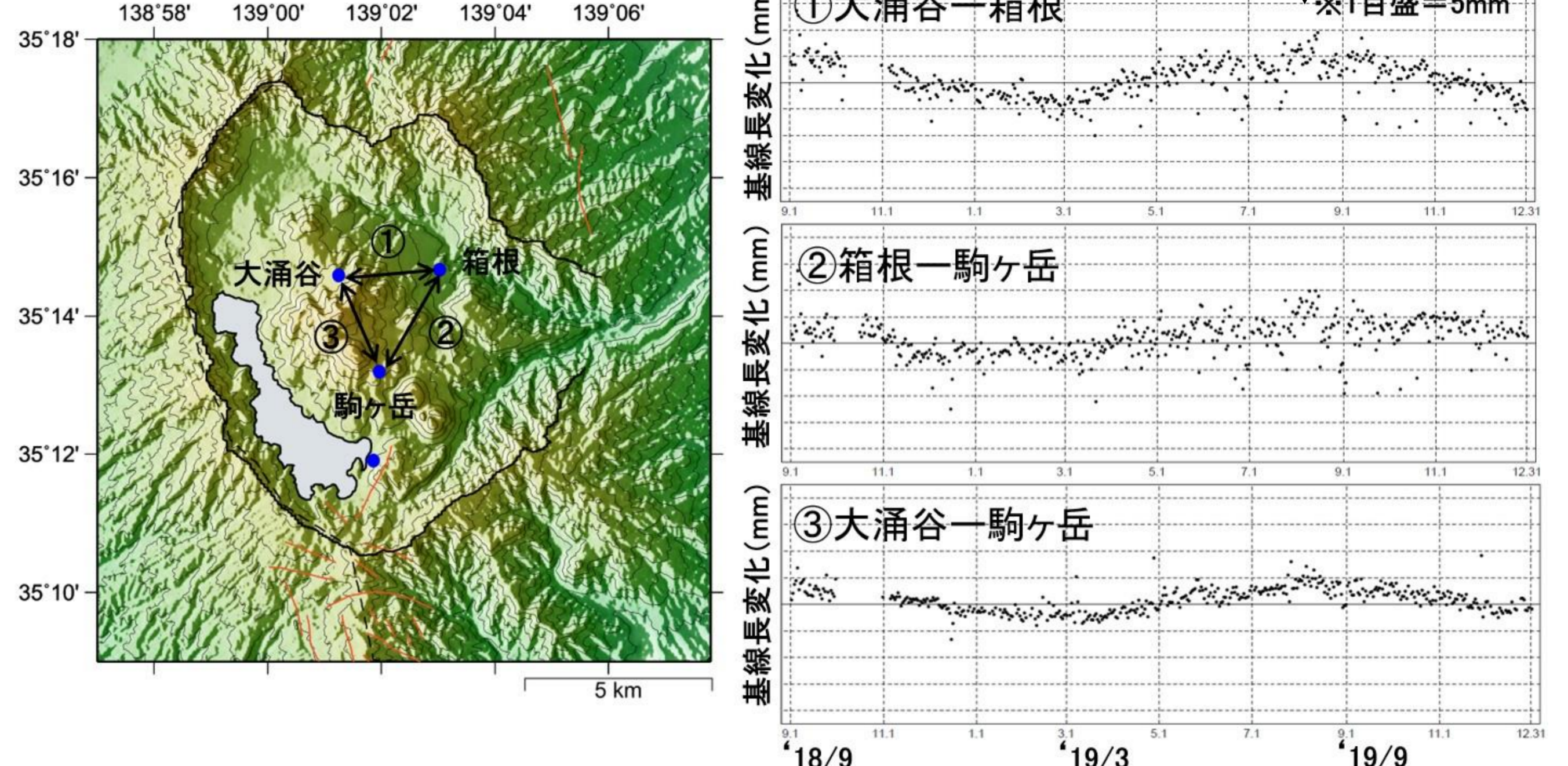
地殻変動の状況

3月頃から山体膨張の傾向を示していた地殻変動観測では、長基線、短基線とも、緩やかに伸びの傾向を示し続けましたが、9月頃から伸びが鈍化してその後停滞しました。

長基線：深い部分の変化を捉えやすい

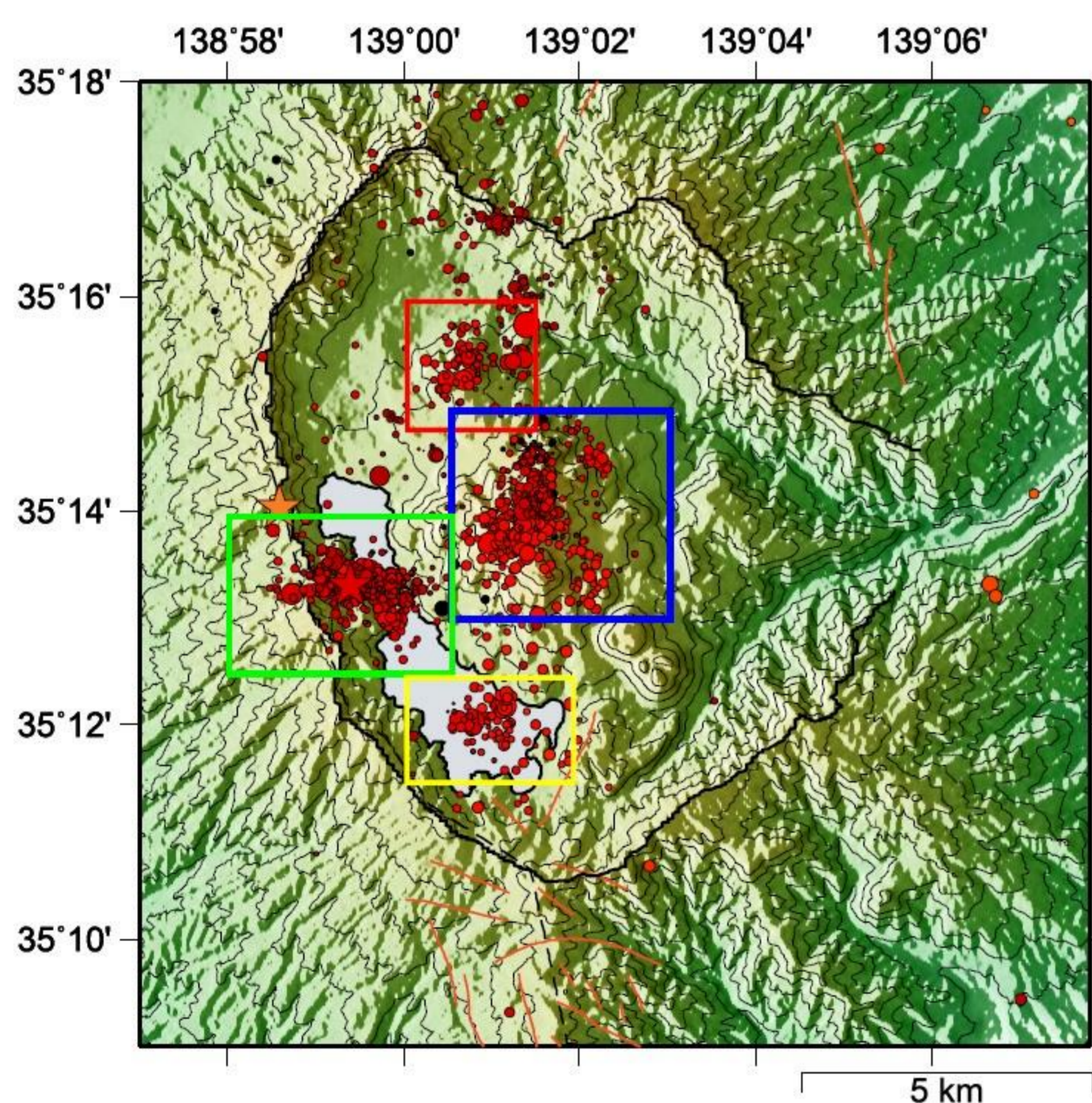


短基線：浅い部分の変化を捉えやすい



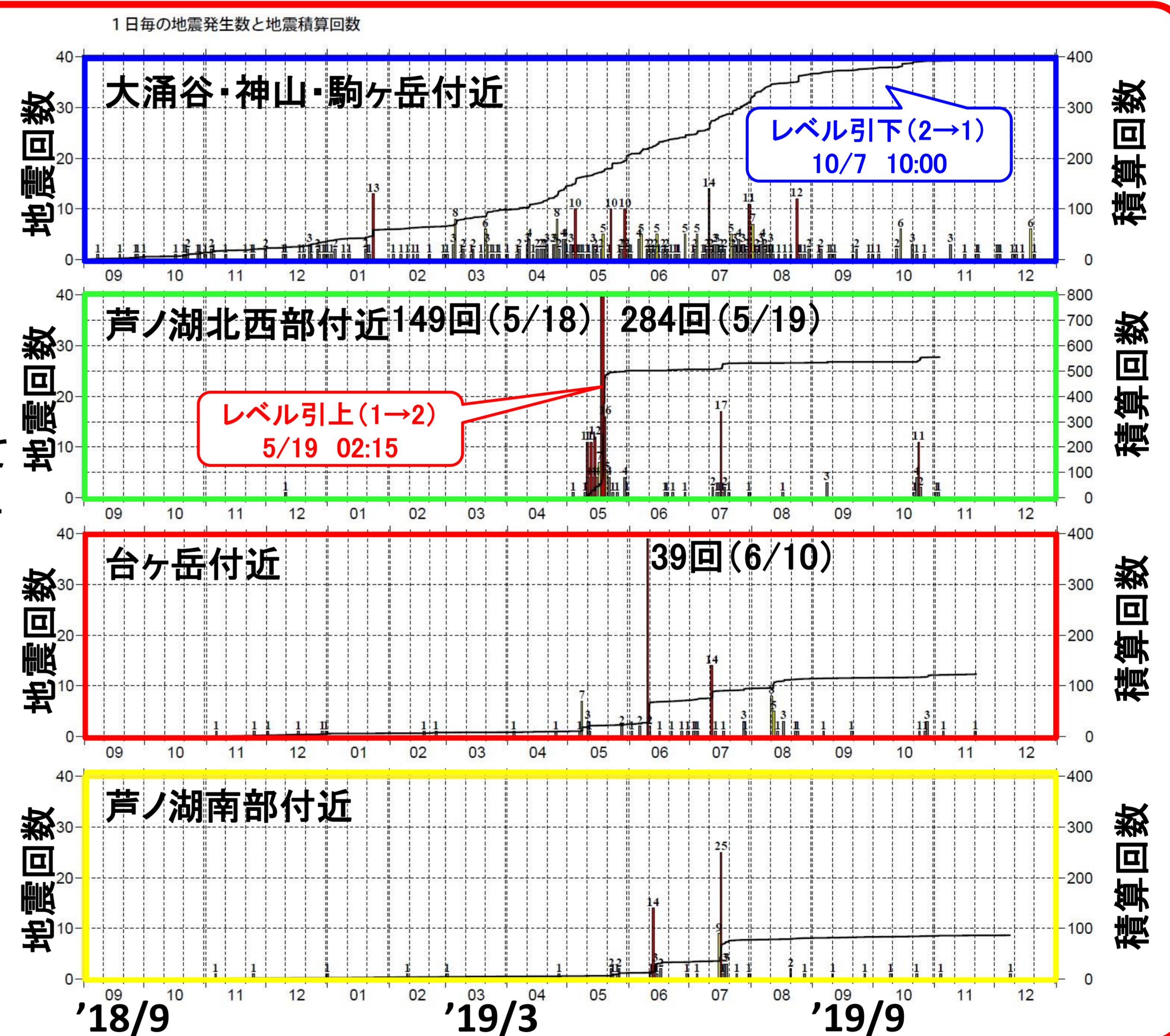
地震活動の状況

3月下旬頃から大涌谷、神山、駒ヶ岳付近の地震(青棒)が通常よりやや多めに推移し、4月下旬以降更に多めに推移しました。一方、通常ほとんど活動のみられない芦ノ湖北西部の地震(緑棒)が5月中旬から発生し始め、18日夕方から多発し、その後数日多い状態が続きました。それ以外の領域(台ヶ岳付近(赤棒)、芦ノ湖南部(黄棒))でも、一時的にややまとまって地震が発生することがありましたが、顕著な活動には繋がりませんでした。



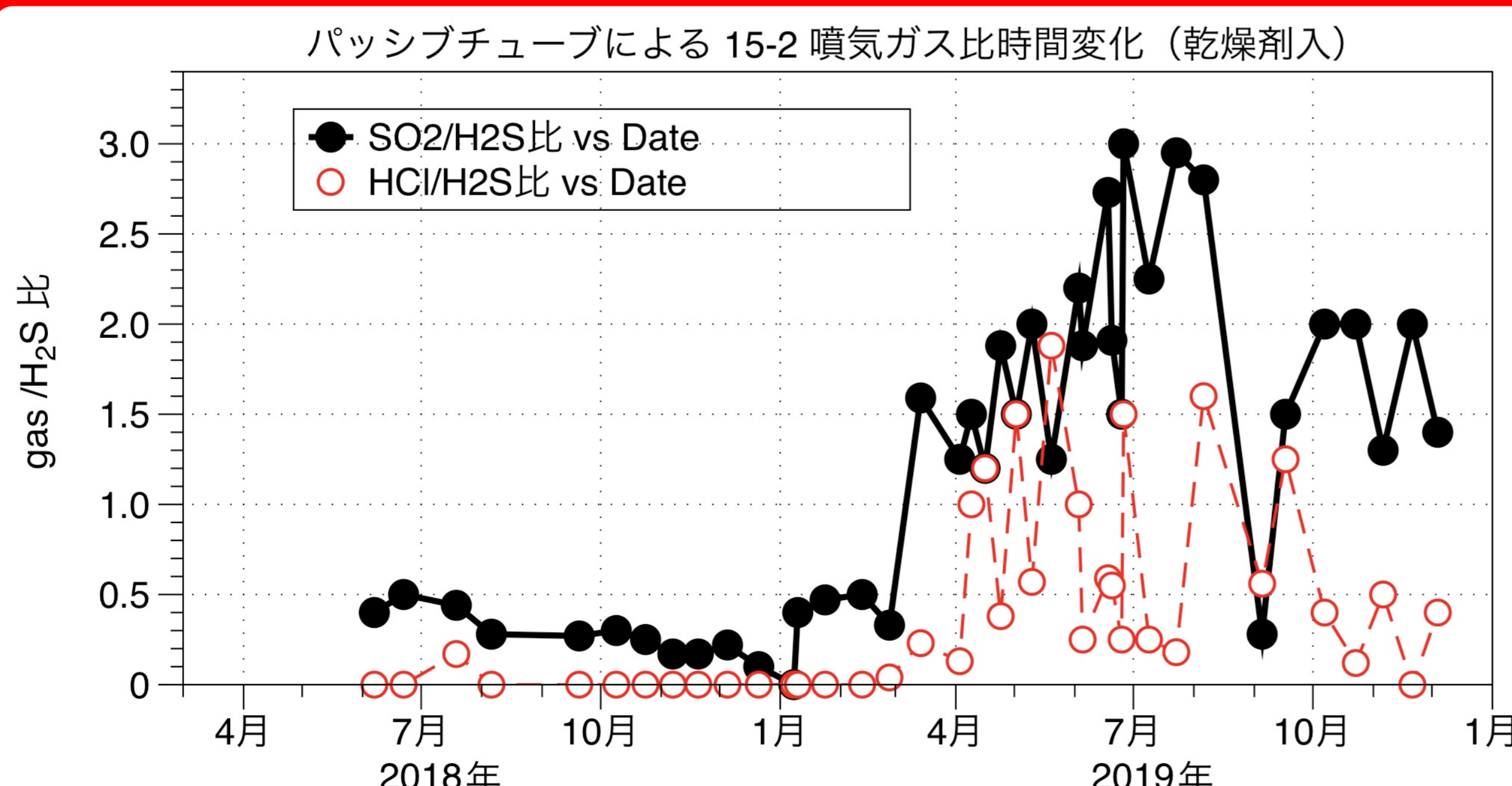
○棒グラフの色について
 赤棒: 日回数10回以上
 黄棒: 日回数5回以上
 灰棒: 日回数4回以下

注) グラフ中の地震回数は、温泉地学研究所のカウントによるもので、気象庁のカウントとは異なります。



火山ガスの状況

大涌谷の代表的な噴気孔15-2における火山ガス観測では、3月に入ると火山活動の活発化を示す変化が見られました。この変化は現在低下傾向を示していますが、2019年2月以前の傾向には戻っていません。(2020年2月現在)



※大涌谷では、2015年のごく小規模な噴火を伴う活動以降、噴気活動が活発な状態が継続しています。

主な火山ガスは、硫化水素(H₂S)、二酸化硫黄(SO₂)等で、大涌谷園地内にも一時的に高濃度のガスが流れる事があり、注意が必要です。

火山ガスの影響を受けやすい高感受性者(ぜん息、気管支疾患、呼吸器疾患、心臓疾患をお持ちの方、また心臓にペースメーカーを装着されている方)は、大涌谷園地への立入りはできません。